明海大学浦安キャンパス教育後援会会報

明海大学
MEIKAI UNIVERSITY

潮風

平成18年1月20日発行（年2回刊）
〈教育後援会だより〉
しおかぜ
発行／明海大学浦安キャンパス教育後援会
〒279-8550　千葉県浦安市明海8
電話　047-355-5112　FAX　047-355-2871
http://www.meikai-koenkai.com/

2005年度　地区教育懇談会

今年も、明海大学教育後援会主催の教育懇談会が9月19日から各地区で開催された。会場は、新潟・盛岡・静岡・福島・浦安市の5会場。就職懇談会も含め、約500名の保護者が参加した。

北陸地区教育懇談会　9月19日（祝）新潟市

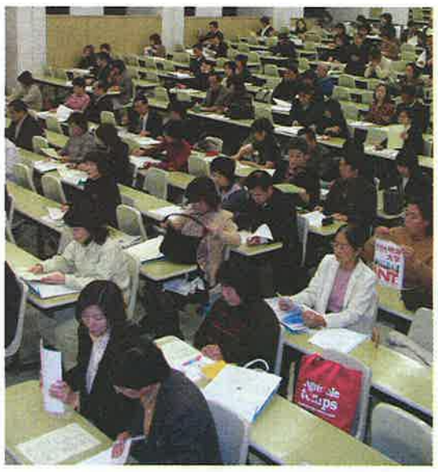
2005年度最初の地区教育懇談会が北陸地区でスタート。成瀬副学長、小泉不動産学部長をはじめとした教職員、教育後援会役員、保護者など約70名が参加した。

まず、成瀬副学長が大学の近況報告として、今年度からスタートしたホスピタリティ・ツーリズム学部について「この学部はホスピタリティマインド（おもてなしの心）を持った、社会に役立つ人材を送り出すことを目的にしている」と、より実践的な人材育成を意識した学部であることを説明。また、今年度から導入された「退学勧告制度」についても触れ、「あくまでも学生のモチベーションを高めていくための制度。いろいろと手を尽くした上で、それでも学生が対応してくれない場合は早めに本人が目指すところに進路を変えてもらおうというもの」と、社会情勢の変化に対処して大学も変わらざるを得ない実情を話し、「大学と保護者の間で協力し合いながら、よりよい学生を育てていきたい」と協力を求めた。

田部教授

続いて、鈴木陽夫会長が「親元を離れている学生に対する心配はいろいろとあることでしょう。今日は先生や事務職員の方が来ているので遠慮なく質問して、有意義な時間を過ごしてください」とあいさつ。「せひこの機会に先生方や職員の方にご相談していただき理解を深めていただければと思います」と呼びかけた。

そして、小泉允圀不動産学部長が、ここ数年で行ってきた教育のしくみについて説明。就職支援のためにキャリアサポートセンターを設立したり、海外研修・留学や、一人ひとりの学生が充実したキャンパスライフを送れるように生活面も含めた学生支援体制を充実させるなど、学生のサポートに大きな力を置いていることを、わかりやすく解説した。


多数の保護者が参加した懇談会

【講演】

この後、英米語学科の田部滋教授が「ことばに感謝」と題して講演。長い間、語学教育に携わってきた教授は、「言葉は伝達の手段であるのはもちろんだが、コミュニケーションの手段でもあり、私たちは良好な人間関係をつくるために言葉を交わしている」と述べ、「会話の根底には人を信頼する気持ちがある」としながらも、使い方で相手を傷つけたり萎縮させてしまうこともあると語った。

そして、総合教育センターヒューマン教育部門長で不動産学部の田中一行教授が、本学の社会貢献活動について報告。特に、水害の三条市や中越地震被災の長岡市、魚沼市で、学生だけでなく教職員も参加して支援活動を行なったことを、スライドを使って紹介した。

【個別面談】

個別面談は、学生の成績表と時間割を資料に行われる。真剣な表情で話を聞く保護者と、熱心に相談にのる先生方の姿が印象的だった。成績のほか、留学相談、就職相談、教務相談、学生相談のコーナーが設けられ、担当職員と熱心な面談が続いた。

【懇親会】

懇親会では、ちょっとしたサプライズがあった。たまたま新潟に来ていた本学サッカー部のジョゼ監督と、本学の卒業生でジェフ市原のJリーガーでもあった八津川義廣コーチが来場した。「本学のサッカー部はいいチームに仕上がってきています。今後を楽しみにしてください」というジョゼ監督のあいさつに、大きな拍手が起こった。

【参加者の声】

・明海大をもっとメジャーにしてほしいですね。地元で名前を知っている人が少ないのがさみしいです。
（英米語学科4年）

・留学という経験をさせてもらい、とても積極的な性格になって帰ってきました。おかげさまで就職の内定もいただきました。
（英米語学科4年）

東北地区（A）教育懇談会　9月23日（祝）盛岡市

東北地区（A）教育懇談会が9月23日（祝）岩手県盛岡市で開催された。

盛岡市での開催は3回目。高倉学長をはじめ、朝日副学長（経済学部長兼務）、小泉不動産学部長、草野HT学部長ほか教職員と、保護者、教育後援会役員を含め約50人が参加した。高倉学長が大学側を代表し、「4月からホスピタリティ・ツーリズム（HT）学部を加えて4学部体制となりました。今日は新設のHT学部のご父母にもご参加いただきありがとうございます」とあいさつ。そして、「大学は研究機関から教育機関へと役割をシフトしている」という最近の動向を説明し、「高度専門職業人の育成を含む、幅広い職業人の養成が本学の役割と定め、就職に強い、実学志向の大学へと大きくシフトしました。現在、その実現のためにカリキュラムの充実と、カリキュラムに基づいた教育の促進に懸命に取り組んでいます」と話した。

平井教授

続いて、小泉不動産学部長が、大学の近況として、ここ数年で行ってきた本学の取り組みについて「基礎学力をつけて、自主性・創造性を持った人材を育成し、就職に有利な実践的、実学的な教育を行い、主体的な職業選択ができるような教育が、本学の目指すところ」として、その目標を実現するために産学連携や実務経験を持つ人を教師として迎えたり、資格取得を勧めるなど、カリキュラムに工夫をこらしていることを説明しました。

【講演】

この後、経済学科の平井源治教授が「財政再建に向けた税制改革」と題して講演を行いました。まず、現代の租税の原則を「公平、中立、簡素」と再確認した上で、日本の財政赤字の多さを説明し、「財政再建には、大雑把に見積もって約10兆円の増税が必要である」と述べた。

「私たちは有権者として是非参加して頂き大学との相互理解と信頼を深めて頂きたいと念願しております。

9月5日から3日間の学友会サマーキャンプに教育後援会の役員4名と事務長が参加し、分科会にも出席いたしました。今年のテーマは「Let's Meikai University」でした。学長はじめ先生方・職員が参加し活発な意見交換がされました。学生諸君が自分のことと捉えて討議に参加している様子を間近に見聞き、頼もしく感じられ、出された意見が反映されることを期待しております。

今年度は、前年からの事業見直し計画（3カ年）が2年目になります。個々の事業について各分科会を設け次年度予算に反映できるよう検討いたしております。

今後とも学生の部活動やサークル活動支援などに視点をおいた予算化を図っていきたいと思います。

事業見直し計画はすぐに解決とはいきませんが、大学の益々の発展と学生生活充実の為に協力支援をしていきたいと思いますので、皆様の一層のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

明海大学浦安キャンパス教育後援会
会長　鈴木陽夫

2006年の新春を迎え、教育後援会の皆様に対して心よりお慶び申しあげます。また、日頃より教育後援会の年間事業活動にご理解を頂きありがとうございます。さて、昨年5月の評議員会以降7カ月を過ぎての、一部の経過報告を述べさせていただき新年のご挨拶とさせていただきます。

9月から12月にかけて地区教育懇談会が開催されました。北陸・東北・関東・東海地区で約500名以上の保護者にご出席頂きました。高倉学長はじめ先生方・職員・教育後援会役員等多くの方々にご協力を頂き心から感謝申し上げます。

地区教育懇談会の中で個別面談のほかに留学・就職・教務・学生相談も相談者の増加がみられ、各地区で、卒業年度の保護者から就職内定の情報が多数寄せられました。

また、3年生を対象とした就職懇談会には200人・2年生対象の関東地区懇談会にも約200人以上の参加を頂き関心の高さを改めて認識いたし、更に充実した懇談会を目指して内容の充実を図ってまいります。

特に保護者の皆様には、

て政府からさまざまなサービスを受けているが、同時に納税者として費用を負担しなければならない。それなのに、利益は自分に、負担は他人にという意識が強くなっている」として、「財政の情報開示とともに、租税については目に見える税―つまり、所得税なら申告制に、消費税なら外税にすることが望ましい」とまとめた。

【個別面談】

個別面談は、学科別に行われ、学生の成績表と時間割を資料に、担当の先生から成績を中心に話を伺う。今年新設されたHT学部の草野先生は、「新しい学部なので、ご父母のみなさんはどんな学部なのか興味をお持ちのようです」と、初めての父母との面談を振り返っていた。

【懇親会】

個人面談の後、懇親会が行われた。まず、鈴木会長が「今日は1年生の参加が多いので、2年、3年と続けて参加して、保護者のネットワークをつくっていきましょう」と、高倉学長が「面談の待ち時間の間に、みなさんと親しくお話ができ、有意義でした」とあいさつ。楽しく和やかな懇談の場となった。

【参加者の声】

・不動産関係の仕事をしています。今日はいろいろな先生とお話ができて、明海大学に期待が持てるようになりました。懇談会だけでなく、父母が参加できるいろいろな企画をしてほしいですね。

（不動産学科1年男子）

・明海大学の名前を知らなかったので、不安に思っていましたが、今日先生方とお会いして、いい大学に入れていただいたと思いました。これからもよろしくお願いします。

（HT学科1年女子）

東海地区教育懇談会　10月22日（土）静岡市

東海地区教育懇談会が10月22日（土）静岡県静岡市で開催され、高倉学長をはじめ、津野憲道教務部長などの教職員、保護者、教育後援会役員など約50人が参加した。

まず、教育後援会の鈴木会長が「日頃は親元を離れている子どもたちの生活を知るいい機会であると考えています。今日は大学からたくさんの先生方、職員の方がお見えになっていて、直接話しができます。短い時間ではありますが、有意義な時間を過ごしてください」とあいさつした。

次に、大学側を代表して高倉学長があいさつ。週刊・東洋経済で特集された「本当に強い大学」の記事にふれ、私立大学のランキングで、本学は財務力で5位、経営革新力が30位くらいに登場していたと紹介した。しかし、研究力、教育力、就職力の項目では50位以内に入っていなかったことから、「できるだけ早い時期に、研究、教育、就職の面でも有名大学と肩を並べてランクインされるよう努力します」と話した。

次に、教務部長の津野先生が、大学の近況を報告。就職に強い実学志向の大学を目指して、自己分析やキャリアプランを構築するリテラシー教育プログラムや、インターンシップや資格取得などのキャリアアップを目的とするプログラムを導入するなど、本学のカリキュラムについて、さらに、就職支援や海外研修や留学の支援、学生生活全般にわたる支援など、一人ひとりの学生に対するサポート体制の充実を図っていることを説明した。「本学は若い大学で、老舗には及ばない所もありますが、教師・職員一丸となってやっていますので、ご理解・ご支援ください」と話した。

堀教授

【講演】

全体会の最後は、今年新設されたホスピタリティ・ツーリズム学部の堀和秀教授が「『良きサービス人材になること』は『すてきな心を育てること』と同じ」というテーマで講演。

長年、日本航空で仕事をしていた先生は、これからの日本の企業で働くということについて「いわゆるサービス業だけでなく、銀行やデパート教育なども含め、ほとんどの仕事はお客様という人間を相手にするわけで、これから就職する学生たちは、接客を担当する可能性が非常に高い」と予測。接客に向いているのは、①人と話すことが好きな人、②人とコミュニケーションをとることが好きな人、③人の喜びを自分の喜びにすることができる人、④人の気持ちと状況を読める人で、「日常の家族との接し方の中から、訓練されるものだ」とアドバイス。また、「接客業は、仕事をしながら人間として成長でき、心の大切さがわかるすてきな人間を目指せる仕事です」と話した。

【個別面談】

個人面談では、成績表などをもとに、先生から日頃の学習の様子を聞いたり、進路などについてアドバイスを受けた。個別面談を行った先生は、「健康面の問題から単位がうまく取れていない学生がいました。ご両親も心配なさっていたので、必ず私のところに相談に来させるようお話しました。離れて暮らしているだけに心配されているようでした。うまく伝わるといいのですが」と話していた。また、就職の相談コーナーでは、4年生でまだ就職が決まっていないという保護者の相談に対し、「ほとんど就職活動をしていなかったようです。まだ、たくさん求人が来ているから、とにかく一度キャリアサポートセンターに相談に来るよう伝えました」と同センターの山本主幹。ほかに、留学、学生相談、教務相談のコーナーが設けられ、どのコーナーも熱心な相談が続いていた。

【懇親会】

最後は懇親会。「個別面談では話しにくかったことも、この席で聞いてみてください。また、おおいに東海地区の保護者同士の交流を深めましょう」と鈴木会長のあいさつ後、ホスピタリティ・ツーリズム学部の草野学部長の乾杯で懇親会がスタートした。

途中、先生方の自己紹介を兼ねたスピーチがあり、授業や先生のこだわりなどを楽しく話していただきました。また、今回で卒業となる4年生の父母がステージに立ち、一言ずつあいさつをする場面も。「マイペースな子で心配していましたが、先生方のこまやかなご指導のおかげで、内定をいただけました」との報告に、会場から大きな拍手がわき起こった。

【参加者の声】

子どもが学生支援のみなさんに相談にのってもらいたいへんお世話になっています。とても親身になってくださって感謝しています。静岡からもっとたくさんの人が明海大に入ってくれるといいと思っています。

（英米語学科4年女子）

・とても楽しい会でした。高倉学長とお話ができ、感激です。どの先生も熱心で、来てよかったと思います。

（HT学科1年男子）

・有意義な懇談会なので、もっとたくさんの方が参加できるといいと思います。ありがとうございました

（不動産学科1年男子）

東北地区(B)教育懇談会　11月20日（日）福島市

東北地区(B)教育懇談会が11月20日（日）福島県福島市で開催された。成瀬副学長、朝日副学長のほか、教職員、保護者、教育後援会役員を含め約60人が参加した。

教育後援会の鈴木会長が、「日頃はお子さんの学業や生活などについてご心配もあろうかと思いますが、本日は大学から先生方、職員の方に来ていただいています。成績に関することだけでなく、ふだん心配に思っていることを遠慮なくご質問ください」とあいさつして、東北地区の懇談会がスタートした。

次いで大学を代表して成瀬副学長が「大学の特色を出すために、本学は実学志向という方向に教育方針を定めました。そして、社会で役立つ実践的な教育を実現するために教職員一丸となってがんばっています。またその一環として、今年ホスピタリティ・ツーリズム学部を発足し、大いに期待しているところです」とあいさつ。そして、朝日副学長が大学の近況報告を行った。先生は、学生の視点で大学を紹介するため、自らデジカメを持って学内を取材。パソコンを使って、スクリーンに写真を写しながら話しを進めた。内容は、経済学科3年生の1日を通して、キャンパスのある新浦安の街や、キャンパスや

金沢工業大学を視察して――就職率100％の謎を解け！

教育後援会　幹事　横山容子

「金沢工業大学」と聞いてまず私の頭に浮かんだのは、鳥人間コンテスト・大学対抗のロボコンにいつも参加している学校ということだ。特にロボコンは興味があり、毎回テレビで見ている。情報量の少ない私はそのくらいのことしかこの大学についての情報はなかったが、教育後援会の視察校を選択する際、「就職率約100％の金沢工業大学」と聞き、私の興味関心度もおおいに高まり、今回興味深く視察に参加した。

大学は明日から文化祭ということで、学生が校内のあちこちで忙しそうに準備していた。大学見学の高校生が大型バスからぞろぞろ出てきて、キラキラした眼で学校案内を受けていた。校舎は広大な敷地の中にいかにも工業大学と思わせる近代的な建物がずらりと並んでいた。

自由なモノづくりができる空間「夢考房」や工学基礎をいつでも何度でも学べる「工学基礎教育センター」・世界最大級の工科系専門図書館「ライブラリーセンター」・「365日24時間オープンスペース」の自習室など学生が自ら学ぶ上で必要となるあらゆる施設・設備が整う国内屈指のキャンパスで現在工業専門校も含め約8000名が意欲的に学習・研究活動に取り組んでいる。学生には一人一台のパソコンを低価格で提供し、それを使って講義が進められる。学生の頑張ろうとする気持をしっかり受け止める教育環境があった。

170名の大学関係者がアメリカの大学を視察し、それを基に平成7年から金沢工業大学の教育改革が始まった。各教授が明確な目的・目標を持って指導し、学生の発想をうまく取り入れ「創造的なアイデアを取りいれた教育」を進め、実社会で役立つ、生きた思考と技術を身に付けるため、考える習慣を徹底的に訓練する教育を実践している。教授や職員のほとんどが同大学の卒業生という愛校心たっぷりの教職員と学生の協同作業によっての教育が実現されていた。「勉強する大学」として教育の付加価値日本一を目指して取り組み遊んでいられない教育課程の編成（授業や授業外）もしっかりとしたものであった。365日24時間利用できる自習室は管理する職員もいない中で、それぞれの学生が自覚し、汚すことなく騒ぐことなく主体的に個人やグループの課題に向かっている姿はまさしく本大学が目指している「学力×人間力＝自ら考え行動する技術者」が育成されていると感心した。学生ばかりでなく教授にとってもなかなか厳しい職場環境になっていた。「就職の指導は教育の一環、教育の成果は就職の成果」との学長の言葉により、各研究室の教授が100％の学生を把握し、就職の責任を持つシステムになっており、とても面倒見のよい大学として外部からの評価も高い。このような日頃の学生と教授の協同作業の結果、16年度の就職率99・7％と高い内定率を達成し、半分以上が大手企業に就職したそうである。フリーターやニートがいて驚かなくなっている今の状況の中、逆に驚いた。「勉強する大学」としての付加価値と共に授業外に自分の興味関心に合ったことや夢を実現できる自由に自分を表現できる施設の充実により、金沢工業大学は学校紹介の冊子のキャッチフレーズのとおり「学生を元気にさせる大学」と感じた。そこに就職率約100％の謎を解く鍵があった。

10月に行った金沢工業大学視察の様子

授業の様子、食堂や図書館などの施設、キャリアサポートセンター、留学支援、学生支援のスタッフなどを紹介。また、教育後援会の支援がどのように活かされているのかも織り交ぜて、わかりやすく説明した。

【講演】

全体会の最後は、不動産学部教授の長谷川徳之輔先生が、「これからの不動産事情、土地不動産に構造的転換」と題して講演をした。日本経済が大きな転換期を迎えている今、土地や不動産がこれからどうなっていくのかという興味深いテーマで「土地はもっとも有利な資産という時代は1960年代から約30年続きました。この時代は地価の上昇率が経済成長率を上回り、いわゆる土地神話という言葉も生みました。しかし、もうこんな時代は来ないと理解しないといけない。でも、言い換えれば、経済が安定し落ち着いたいい時代になったとも言えます」と先生。人口減少や経済の低成長などを背景に、土地がたくさんいるという時代ではなくなりつつあり、所得が増える保証もないので長期ローンは破綻の危険もあることから、持ち家を求めている人が減っているのは事実。「土地は空気などと同じ自然物だと考えた方がよい時代。付加価値がつけられなければ、タダも同然です」。しかし、産業構造が変わって、大都市に集中する必要もなくなり、今、住みやすい町がいいと地方都市が見直され、地価が上がってきている。また、様々なライフスタイルや価値観を持つ人が増え、多様な住まいが求められる時代でもある。「土地の需要がなくなったから、不動産業界はだめではないかと心配する人もいますが、こういう時代だからこそ、国民の生活の質を上げることのために、不動産学があると自負しています。そんな時代を担う人材育成のために本学の不動産学部もあると考えています」と結んだ。

長谷川教授

【個別面談】

全体会の後は、個別面談が行われた。成績表などをもとに、先生から日頃の学習の様子を聞いたり、進路などについてアドバイスを受けた。面談を行ったHT学部長の草野先生は、「なかなかTOEICのスコアが上がらないと心配されていましたが、先生方も精一杯バックアップするから、信じて勉強してほしいとお話ししました。どの親御さんも熱心で、身のひきしまる思いがしました」と感想を話した。就職の相談コーナーには、「地元・福島で就職させたいが、どのようなサポートをしてもらえるか」という相談があった。

【懇親会】

「ここからはかみしもを脱いで、大いに語り合いましょう」という成瀬副学長のスピーチと、朝日副学長の乾杯で、懇親会がスタート。おいしい料理を楽しみながら、父母同士はもちろん、先生や職員ともなごやかな交流ができました。途中、先生方の自己紹介を兼ねたスピーチが行われ、キャリアサポートセンター長の下田先生は「学生をほめて、自信を持たせてあげてほしい。経験から、ほめられて伸びる子が多いように思います」と父母へアドバイス。このほかにも、先生の人となりがわかるようなお話や、意外な一面をのぞかせるエピソードが披露され、会場は和やかな雰囲気に包まれた。

【参加者の声】

・成績が悪かったので心配で来ました。先生方にはいろいろと相談にのっていただき、感謝しています。参加してよかったです。
（英米語学科4年女子）

・子ども自身で見つけて、行きたいということで出したのですが、明海大学は地元ではあまり知名度がないので、心配していました。今日は学部長と身近に話ができて安心しました。もっと宣伝をして、有名になってもらいたいと思います。
（HT学科1年女子）

・初めて参加しましたが、有意義な会でした。これからも続けてください。役員のみなさんお疲れ様でした。
（不動産学科3年男子）

Interview

「なぜ」が学びの第一歩に

経済学部経済学科教授　佐々木康史先生

1949年群馬県生まれ。立教大学大学院修士課程修了後、三菱総合研究所へ入所。市場調査や企業の経営戦略のアドバイスをするプロジェクトで活躍。成蹊大学大学院博士課程後期課程単位取得退学後、1988年本学経済学部に着任、現在経済学科主任。主な著書に「国際マクロ経済学」（文化書房博文社）などがある。

民間のシンクタンク出身。元経済企画庁長官の堺屋太一氏のプロジェクトにいたこともあるという。

「市場・企業を分析して、経営戦略を策定し、経営陣にアドバイスをするという仕事もしていました。大企業の業績を左右するような意志決定に関わりますから、リスクも大きいが、貴重な体験をさせてもらったと思います」

企業だけでなく、国の通商政策を動かすような場面にも数多く関わっている。先生の口からは、歴史を変えたあの日の裏側の話が、どんどん出てくる。まさに、日本の産業経済を裏から支えた人でもあるが、「人材育成の醍醐味を味わいたい」と、本学の創立時から教壇に立っている。

「一つのテーマを何年も突き詰めて研究するというよりは、常に社会との接点を持ち、時代の大きなうねりを見つけて、そこから新しい課題を見つけていくというタイプですね」

現在は、経済学科の学科主任。「経済学は世界中でスタンダード。どう特色を出すのかが難しい」と話す。

「まず、どういうスタッフをそろえて他校にはないものを目指すか、そしていかに学生に合った教え方を構築し、成果を出すかではないでしょうか」と、先生。

「実績を積むことで、単なる偏差値以外に、この大学だと、選ばれる大学になれるのではないでしょうか」と熱く語る。

「役職について、全学的な方向性の中で、学科のありようを考えるのはとても楽しい」と話すが、学生と一緒に過ごす時間が減ったことが目下の悩み。

「最近の学生は、議論をしたり、自分で調べて考えをまとめるということを億劫がりますね。ゼミの合宿も盛り上がらなくなりましたよ」と、頭をかく。「学生には〝なぜ〟という問いを持ってほしい。それを教師にぶつけることによって、日常会話から一歩進んだ会話ができます。これが学びの第一歩です。学生の〝なぜ〟から教員と学生の本当のふれあいが始まるのだと思いますよ」。先生の熱心な指導には、学生たちの信頼も厚い。

関東地区教育懇談会

12月4日（日）浦安市

12月4日(日)、関東地区教育懇談会が浦安キャンパスで開催され、高倉学長をはじめ、朝日副学長、小泉不動産学部長ほか多数の教職員や保護者、教育後援会役員が参加した。

まず、鈴木会長が「この機会に現状を知って、子どもたちへバックアップをお願いしたい」と開会のあいさつをした。その後、大学側を代表して、高倉学長がスピーチ。「少子化が進み、誰でも大学に入れる時代となったことにより、学生が多様化し、大学にも多様な対応が求められている」とし、「そんな中で明海大学は、実学志向という方向に大きく舵を切った。日本の大学は700あるが、この先100近い大学が大学経営を撤退せざるをえなくなるとも言われている今、レッドカードを出されることのないよう、明海大という大きな船の舵をとっていきたい」と、魅力ある大学づくりへの強い決意を述べた。そして、小泉不動産学部長がここ数年で行ってきた教育のしくみについて説明。就職支援のためにキャリアサポートセンターを設立したり、海外研修・留学や、一人ひとりの学生が充実したキャンパスライフを送れるように生活面も含めた学生支援体制を充実させるなど、学生のサポートに大きな力を置いていることについて解説した。

相談コーナーの様子

【講演】

全体会のあとは、朝日副学長が「アメリカの国立公園」をテーマに講演を行った。ご自身が撮影したアメリカ国立公園の景観をスライドで見せながら国立公園の歴史、運営の仕方などについて説明。自然を保護すると同時に壊さないように楽しんでもらうという姿勢は世界のお手本となってきたが、車の混雑により自然を損なうという問題も起きていることを指摘した。

【個別相談】

全体会後、昼食をはさんで個別面談が行われた。各学科の先生から、成績表などをもとに、日頃の学習の様子や成績、進級などについて説明を受け、就職など普段心配に思っていることを相談しアドバイスをいただいた。ほかに、就職相談、留学相談、学生生活相談、教務相談のコーナーが設けられ、熱心に相談する父母の姿が見受けられた。

【参加者の声】

・昔は1、2年生で就職のことはまったく考えていなかった。今では1年生から就職を目標にしたカリキュラムが組まれている。親としても認識を新たにして子供をサポートしていきたい。

関東地区アンケート

2年次対象／回収数132名
日本語学科5名　英米語学科29名
経済学科54名　不動産学科32名

A 潮風を読んでいますか
毎回読む　31.8%
時々読む　36.3%
見出しを見て～記事を読む　18.9%
読まない　7.4%
無回答　5.6%

B 大学からの情報に満足していますか
はい　75%
いいえ15%
無回答　10%

いいえと答えた方はどんな情報を望みますか？
・大学行事の日程・単位が足りない時どうすればいいか。個々にもっと詳しい情報・大学の実態、学部、学科からの情報・就職について企業の姿勢・卒業生の就職実績・学内の出来事

地区懇談会に参加した印象
・大学の方針等細かい内容がわかってよかった・学長を始め多くの先生に直接会えてよかった・子供の今の状況がわかった・先生方が親しみやすく気楽に参加できた・子供からの情報ではわかりにくいところが多いのでよかった・保護者同士が話しあえる場がほしい・個別面談の時間がもっとほしい・大学が非常によく学生の面倒をみてくれていると感じた・大学が保護者との連携に努力しているのがわかった

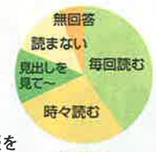
地区懇談会アンケート　北陸、東北A・B、東海地方

アンケート回収数　85名
日本語学科10名　英米語学科24名
中国学科6名　経済学科13名
不動産学科16名
ホスピタリティツーリズム学科16名
学年／1年37名　2年22名　3年11名　4年15名
参加回数／1回45名　2回21名　3回10名　4回6名　無回答3名

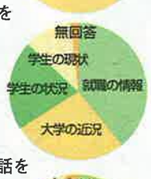
A 今後教育後援会に期待すること
・これからも懇談会を継続してほしい・奨学金制度の充実・懇談会を各県で開催してほしい・学生、保護者と大学のよきパイプ役であってほしい・大学のPR・学生へのバックアップ

B 大学に対しての要望
・就職に限らず学生の進路の具体的相談・資格取得の奨励・奨学金制度の充実・大学のPR・特色のある講座を増やしてほしい・学生のレベルアップ・TOEICクリアのために徹底したプログラムを組んでほしい・留学の支援・就職へのサポート・学生一人ひとりに対して親身になってほしい

1 広報紙「潮風」を読みますか？
毎回読む　40%
時々読む　28.2%
見出しを見て～記事を読む　12.9%
読まない　12.9%
無回答　6%



2 大学からはどんな情報を望みますか
就職の状況　38.8%
大学の近況　27%
学生の状況　21%
学生の現況　12%
無回答　1.2%



3 ご子弟と大学について話をすることがありますか
よくする　16.4%
帰省時にする　37.6%
時々する　37.6%
あまりしない　5%
しない　3.4%